

熊市歯発第164号

令和4年3月15日

会 員 各 位

熊本市歯科医師会

会長 宮 本 格 尚

(医療管理委員会扱い)

骨吸収抑制薬関連顎骨壊死（ARONJ）と関連薬剤について

時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、先生方におかれましては、日常臨床において、抜歯後に顎骨壊死が生じた経験を持つ先生方もいらっしゃると思います。これに関連して、2月3日に、第3回口腔外科ベーシックセミナーを開催し、熊本大学大学院歯科口腔外科学講座准教授の吉田遼司先生よりご講演をしていただきました。

顎骨壊死を引き起こす薬剤として、BP剤などの骨吸収抑制薬がよく知られていますが、その他にも気を付けておきたい薬剤があります。

以前は、抜歯等観血的処置を行う際には休薬して処置を行うことになっていましたが、顎骨壊死検討委員会ポジションペーパー2016をもとに、日本口腔外科学会熊本県支部の統一指針が2020年に示されました(本会HPに掲載)。抜歯だけが顎骨壊死の原因でなく、不良な口腔清掃状態や既存の炎症性疾患(歯周疾患、根尖性歯周炎)も顎骨壊死のリスク因子となっていることなど、これからも顎骨壊死に対する考え方に見直しがあると思いますので、新しい指針に対応していく必要があります。

今回、熊本大学大学院歯科口腔外科学講座の先生方にご協力いただき、顎骨壊死を引き起こす可能性がある薬剤についてまとめました[裏面参照]。日常臨床の際にご活用下さい。

すべての薬剤を網羅しているわけではありませんので、診療の際は、患者の服薬内容を十分確認してください。

骨吸収抑制薬関連顎骨壊死（ARONJ）と関連薬剤について

【ARONJ 発症との因果関係があるとされる骨吸収抑制薬】

* ただし、投与を受けている患者数から類推される発症頻度は低い

①ビスホスホネート製剤（BP 製剤）：

ダイドロネル、フォサマック、ボナロン、アクトネル、ベネット、ボノテオ、リカルボン、ボンビバ、アレディア、リクラスト、ゾメタ など

②デノスマブ製剤（Dmab 製剤）：

ランマーク、プラリア

【ARONJ 発症との因果関係がないとされる骨吸収抑制薬】

* 単剤使用では顎骨壊死が起こることはないと考えられている

①カルシウム製剤：アスパラ CA など

②活性型ビタミン D 製剤：アルファロール、ワンアルファ など

③ビタミン K：グラケー など

④エストロゲン：プレマリン など

⑤ラロキシフェン：エビスタ など

⑥カルシトニン：エルシトニン など

《極めてまれではあるが顎骨壊死との関連が示唆されている薬剤》

出典：King et al. Oral Surg Oral Med Oral Pathol Oral Radiol. 2019 ; 127 (4) : 289 – 299

* BP 製剤、Dmab 製剤と比較しても発症頻度は極めて低い

①チロシンキナーゼ阻害剤：

スーテント、グリベック、ネクサバル、インライタ、スチバーガ、ヴァトリエント、コメトリック、スプリセル

②モノクローナル抗体製剤：

アバスチン（血管新生阻害剤）、イベニティー（抗スクレロシン抗体）、リツキサン（抗 CD20 抗体製剤）、ヒュミラ/レミケード（抗 TNF- α 抗体製剤）

③mTOR 阻害剤：アフィニトール、トーリセル

④免疫抑制剤：メトトレキサート、副腎皮質ステロイド

※ 参考として、商品名を記載していますが、すべての商品を網羅しているわけではありません。
患者ごとに、服薬内容の十分な確認を行ってください。 （2022 年 3 月 1 日現在）

監修：熊本大学大学院生命科学研究部歯科口腔外科学講座